# 2027年3月期
# 第2四半期 決算概要



公式マスコットキャラクター
パンチマン

2026年11月27日

パンチ工業株式会社

（証券コード：6165　東証スタンダード）

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2027年3月期 2Qの決算概要

# 2027年3月期　2Q累計決算ハイライト

日本の売上回復が増収を牽引し、前年同期比で増収増益

| | | |
|---|---|---|
| 売上 | 連結 | 連結売上高は、前年同期比＋12.7%、26億円増収の231億円 |
| | 日本 | 前年同期比＋14.9%の61億円<br>市況の回復や営業体制の再構築の効果により増収 |
| | 中国 | 前年同期比＋9.7%の134億円<br>自動車関連は低調が継続するも、電子部品・半導体関連等でカバー |
| | 東南アジア<br>インド | 前年同期比＋29.0%の13億円<br>現地販売会社をグループ会社化した効果によりマレーシアが好調 |
| | 欧米他 | 前年同期比＋17.1%の23億円<br>展示会への積極出展や販売代理店との関係強化等により好調に推移 |
| 利益 | | 営業利益は前年同期比＋41.6%の1,400百万円<br>経常利益は前年同期比＋32.5%の1,371百万円<br>親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比＋45.0%の811百万円 |
| ネット資金 | | 事業収入の増加により、期首から705百万円増加 |


© PUNCH INDUSTRY


- 2027年3月期 2Qの決算ハイライト
- 売上面では、日本の売上回復が牽引し、すべての地域で前年同期実績を上回り、増収
- 利益面では、日本での売上増加や稼働向上等によりコスト増をカバーし、前年同期より増益

# 損益計算書サマリー（2Q累計比較）

（単位：百万円）

| | 2026年3月期 | | 2027年3月期 | | 前年同期差 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | | 20,564 | | 23,172 | 2,607 | +12.7% |
| 営業利益 | 4.8% | 989 | 6.0% | 1,400 | 411 | +41.6% |
| 経常利益 | 5.0% | 1,035 | 5.9% | 1,371 | 336 | +32.5% |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 2.7% | 559 | 3.5% | 811 | 251 | +45.0% |

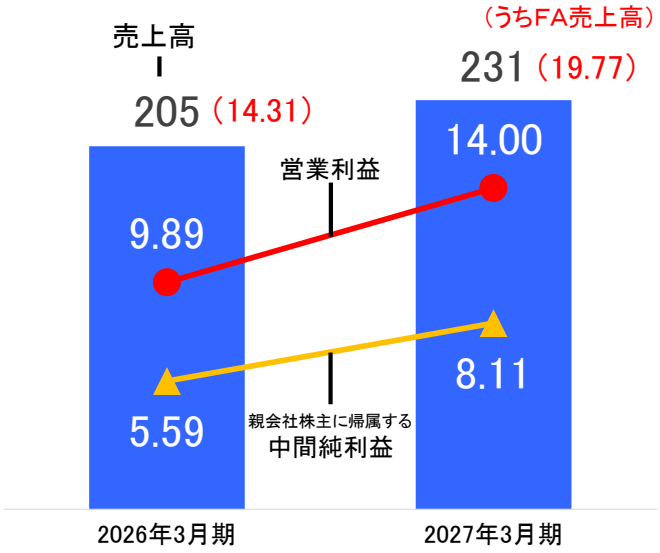
【為替レート（実績）】 1人民元＝23.02円／1USドル＝158.30円


© PUNCH INDUSTRY


- 決算数値の概要
- 売上高は231億72百万円で前年同期比12.7%増、26億07百万円の増収
- 営業利益は14億円
- 経常利益は13億71百万円
- 親会社株主に帰属する中間純利益は8億11百万円
- 為替レート（実績）：1人民元＝23.02円／1USドル＝158.30円

# 売上高と利益（2Q累計比較）

（単位：億円）




【前年同期比較】

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 26 | 億 | 07 | 百万円 | 増収 |
| 営業利益 | 4 | 億 | 11 | 百万円 | 増益 |
| 純利益 | 2 | 億 | 51 | 百万円 | 増益 |

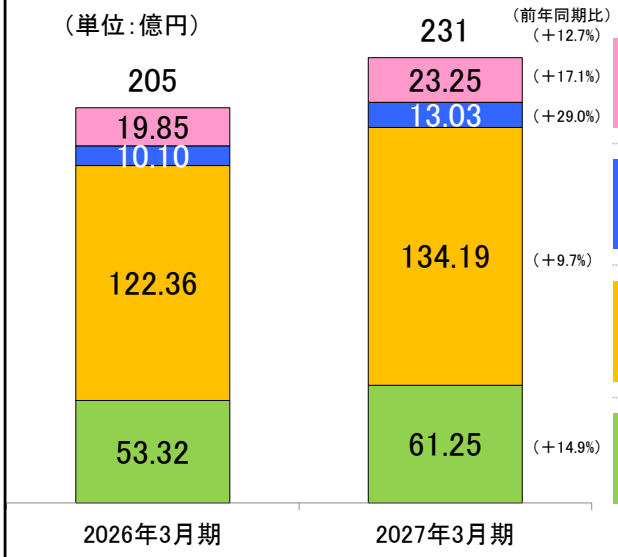
※親会社株主に帰属する中間純利益


© PUNCH INDUSTRY


- ■ 2026年3月期と2027年3月期の売上高・利益比較（2Q）
- ■ FA売上を含め、前年同期比で増収増益
- ➢ 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

# 地域別売上高（2Q累計比較）

全地域において前年同期比で増収　日本の売上回復が大きく寄与




| | |
|---|---|
| 欧米他 | 欧州が好調、米州は堅調に推移 |
| 東南アジア<br>インド | マレーシア販売会社のグループ会社化も寄与<br>シンガポール・インドネシアも好調 |
| 中国 | 自動車関連は低迷<br>電子部品・半導体関連や家電・精密機器関連、<br>注力製品が好調 |
| 日本 | 営業体制再構築の効果により<br>全ての業種で前年同期比を上回る |


© PUNCH INDUSTRY

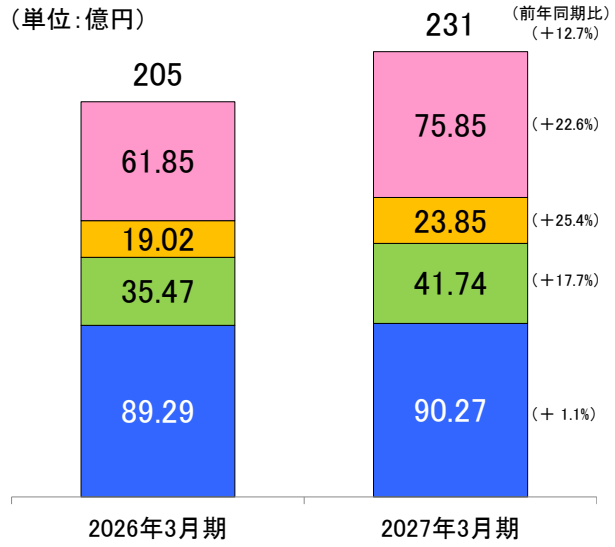

■ 2026年3月期と2027年3月期の地域別売上高比較（2Q）

■ 全ての地域で前年同期実績を上回り、特に日本の売上回復が大きく寄与

➢ 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

# 業種別売上高（2Q累計比較）

自動車関連は中国市場の低迷で伸び悩むも、全業種で増収



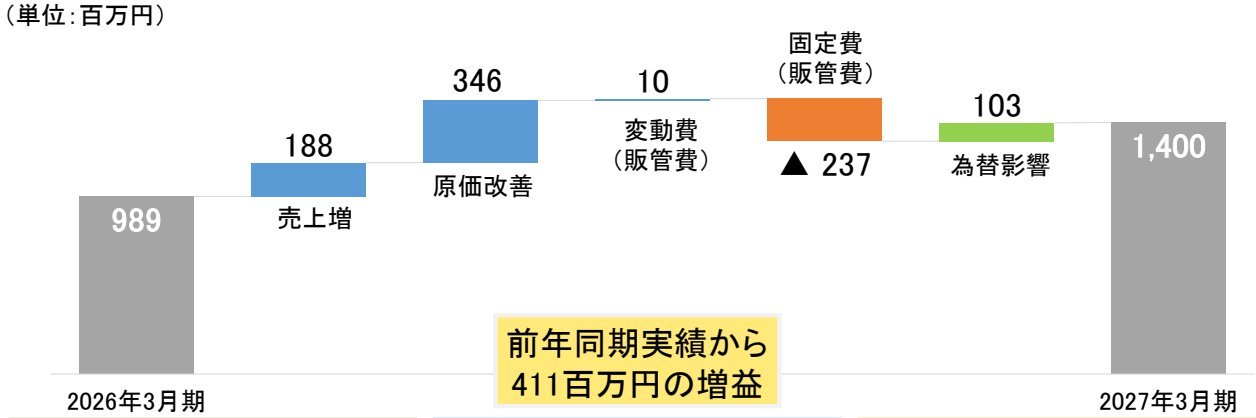

| | |
|---|---|
| その他 | 商社経由、日中での医療関連が好調 |
| 家電・精密機器 | 特に中国で好調に推移 |
| 電子部品・半導体 | データセンター向け需要が好調 |
| 自動車 | 中国は新車プロジェクト減少で減収、日本は営業体制の再構築により増収 |


© PUNCH INDUSTRY


- 2026年3月期と2027年3月期の業種別売上高比較（2Q）
- 自動車関連は、中国市場の低迷で伸び悩んだものの、日本では営業体制再構築の成果もあり増収
- 電子部品・半導体関連はデータセンター向け需要が好調
- 家電・精密機器関連は特に中国で好調に推移
- その他は商社経由の売上や日中の医療関連が好調
- ➢ 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

# 営業利益増減(2Q累計比較)

(単位:百万円)




前年同期実績から
411百万円の増益

**【売上の主な増減要因】**

(+) 日本の売上回復が牽引

(−) 中国での自動車関連売上が停滞

**【原価率の主な増減要因】**

(+) 日本や中国の内製売上増に伴う稼働率向上

(−) 調達価格の高止まりが継続

**【販管費の主な増減要因】**

(+) 中国の継続的な間接費抑制

(−) 日本での営業体制強化による人件費の増加


© PUNCH INDUSTRY


- 2026年3月期と2027年3月期の営業利益の増減分析(2Q)
- 前年同期の営業利益9億89百万円に対して、
  売上増による1億88百万円の増益効果

  原価率は、日本での稼働が良化していることもあり、3億46百万円の増益影響

  販管費は、中国で間接費抑制を継続する一方、日本での営業活動強化による
  費用が増加
- 結果、2027年3月期2Qの営業利益は、前年同期から4億11百万円の増益となり、
  14億円を計上

# 貸借対照表サマリー

（単位：百万円）

| | 2026年３月期末 | 2027年３月期<br>第２四半期末 | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| 総資産 | 34,300 | 36,412 | 2,111 |
| 総負債 | 11,220 | 11,075 | ▲ 145 |
| うち有利子負債 | 3,083 | 2,337 | ▲ 745 |
| 純資産 | 23,079 | 25,336 | 2,257 |
| ネット資金 | 3,558 | 4,263 | 705 |
| 自己資本比率 | 67.3% | 69.6% | 2.3pt |

| | 2026年３月期<br>第２四半期 | 2027年３月期<br>第２四半期 | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| 設備投資額（無形固定資産含む） | 514 | 504 | ▲ 10 |
| 減価償却費（無形固定資産含む） | 574 | 640 | 65 |


© PUNCH INDUSTRY


- 貸借対照表サマリー
- 総資産は、主として売掛金の増加等により、前期末から21億11百万円の増加
- 総負債は、主として長期借入金の減少等により1億45百万円の減少
- 純資産は、主として為替換算調整勘定の増加等により22億57百万円の増加
- 自己資本比率は2.3ポイント上昇し69.6%
- 設備投資額は、前年同期から10百万円減少の5億04百万円

# キャッシュ・フローサマリー

（単位：百万円）

| | 2026年３月期<br>第２四半期 | 2027年３月期<br>第２四半期 |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 241 | 1,327 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 502 | ▲ 536 |
| フリーキャッシュ・フロー | ▲ 261 | 791 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 533 | ▲ 1,105 |
| 現金及び現金同等物の増減額（換算差額含む） | ▲ 1,155 | ▲ 45 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,294 | 6,387 |


© PUNCH INDUSTRY


■ キャッシュ・フローサマリー

■ 営業CFは13億27百万円の収入

■ 投資CFは5億36百万円の支出
通常の設備投資による支出があったことによるもの

■ フリーキャッシュフローは7億91百万円のプラス
前期より10億52百万円の増加

■ 財務CFは11億05百万円の支出
借入金返済、配当金の支払いがあったことによるもの

■ 最終的に、期末の現金及び現金同等物残高は63億87百万円となり、前年同期から10億93百万円の増加

# 2027年3月期　通期連結業績及び配当の予想を修正

2027年3月期 通期連結業績は過去最高売上高を更新する見通し

| （単位：百万円） | 2026年3月期（実績） | 2027年3月期　連結累計期間 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 前回予想（2026/8/7公表） | 修正予想 | 前期差（前期比） | 前回予想差（前回予想比） |
| 売上高 | 42,100 | 45,500 | 47,500 | 5,399 (+12.8%) | 2,000 (+4.4%) |
| 営業利益 | 4.8% 2,031 | 5.3% 2,400 | 5.7% 2,700 | 668 (+32.9%) | 300 (+12.5%) |
| 経常利益 | 5.2% 2,201 | 5.3% 2,400 | 5.6% 2,650 | 448 (+20.4%) | 250 (+10.4%) |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 2.0% 851 | 2.6% 1,200 | 2.9% 1,400 | 548 (+64.4%) | 200 (+16.7%) |
| 自己資本利益率（ROE） | 5.0% | 6.8% | 7.9% | 2.9 pt | 1.1 pt |
| 投下資本利益率（ROIC） | 7.0% | 8.1% | 9.0% | 2.0 pt | 0.9 pt |
| 2027年3月期 配当予想 | 20円30銭（予定） ＝ 中間 10円05銭 ＋ 期末 10円25銭 | | | | |

【為替レート】 1人民元＝23円30銭／1USドル＝157円09銭　【設備投資】 設備投資額：16億円　減価償却費：12億円

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.　© PUNCH INDUSTRY　9

■ 2027年3月期の通期連結業績及び配当の予想

■ 通期の連結業績予想を上方修正
上期実績の上振れ、日本事業の売上改善継続、価格改定による収益改善を踏まえた修正
売上高は過去最高を更新する見込み

下期は先行き不透明な事業環境に加え、日本の営業体制強化、中国の材料費上昇を織り込み、慎重な前提条件

結果、下期は上期比で増収減益を見込む

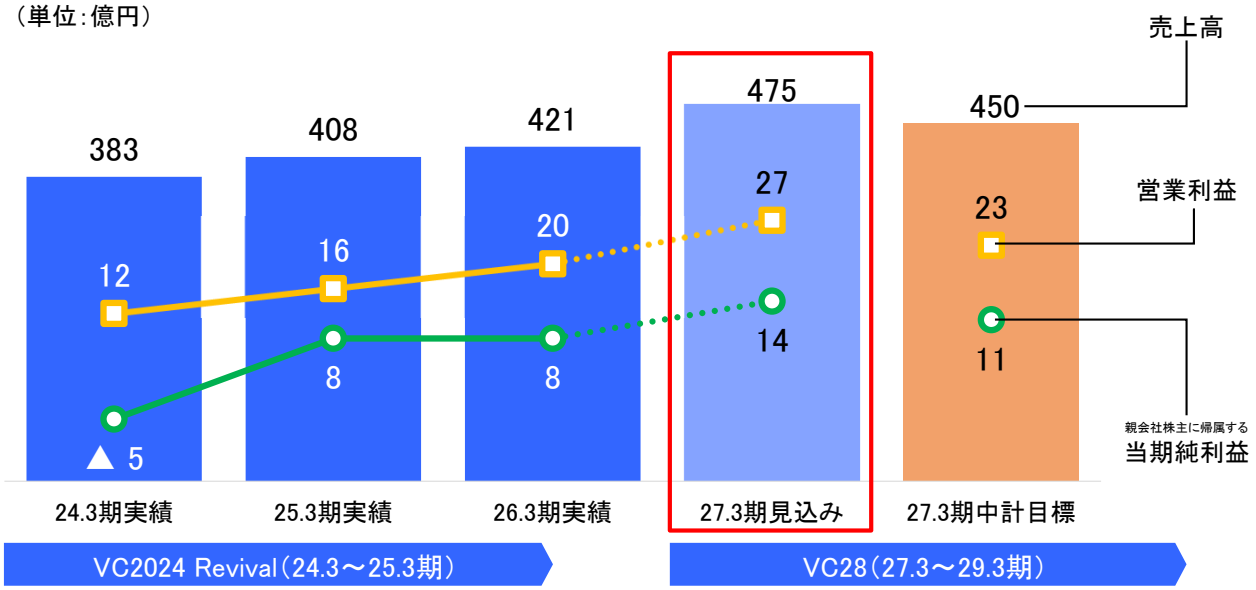
期初に上期へ織り込んでいた固定資産の減損損失が期ズレしており、第3四半期以降に織り込み済

■ 配当予想は、株主資本配当率（DOE）3%をベースに算定した結果、年間で前回予想から20銭増、前期実績から74銭増の20円30銭となる見込み

■ 想定為替レートを修正し、1人民元＝22円55銭から22円30銭、1USドル＝155円39銭から157円09銭へと変更

■ 設備投資計画は約16億円、減価償却費は約12億円を見込んでおり、変更なし

# 経営数値の推移予想

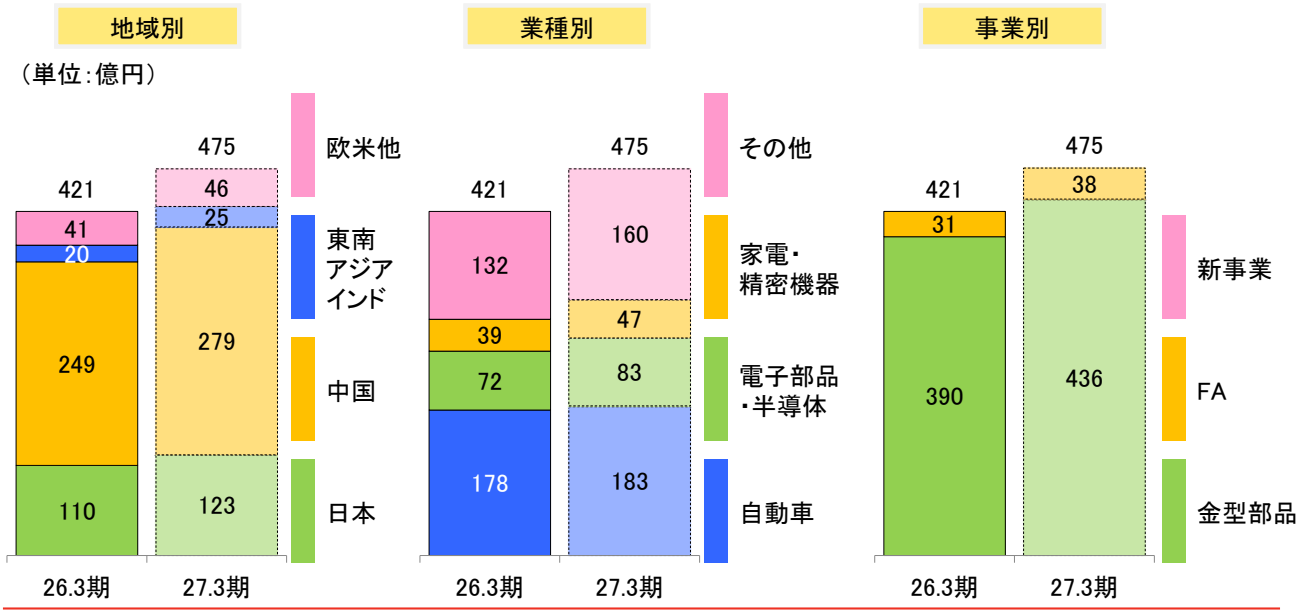




© PUNCH INDUSTRY


- 直近の中計実績と2027年3月期予想について、売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益の推移をグラフ化
- 2027年3月期は中計「VC28」の初年度
  売上高と利益の拡大に向け、各種の取組みを推進

# 地域別・業種別・事業別売上の数値目標




PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

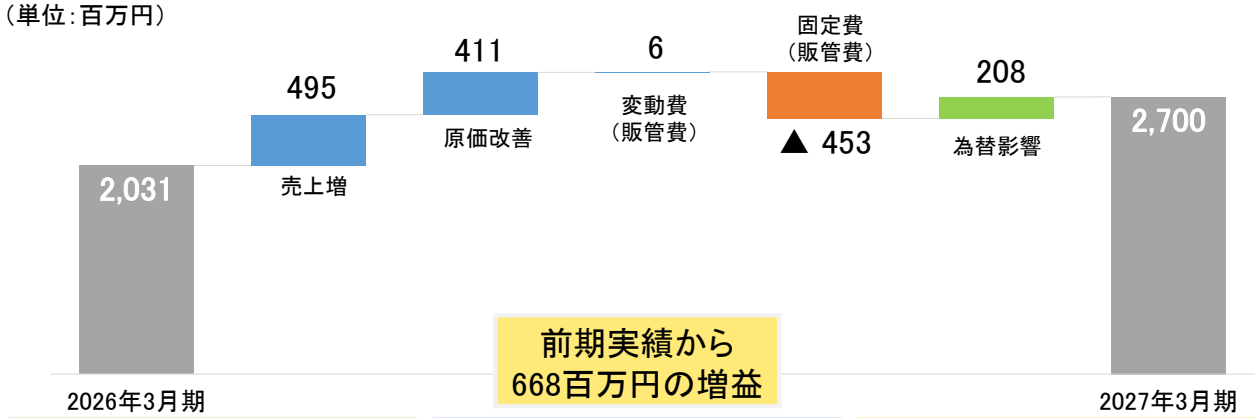
11

■ 2027年3月期の地域別・業種別・事業別の売上推移見込み

■ 売上予想の上方修正にともない修正済

# 営業利益増減（2027年3月期の業績予想）

（単位：百万円）




前期実績から
668百万円の増益

**【売上の主な増減要因】**

（＋）日本を中心とした継続的な売上の増加

（－）原材料高騰に伴う価格改定による一時的な離客

**【原価率の主な増減要因】**

（＋）日本での稼働率向上等による原価率改善

（－）原材料高騰、価格競争激化

**【販管費の主な増減要因】**

（＋）日本・中国での間接費の抑制

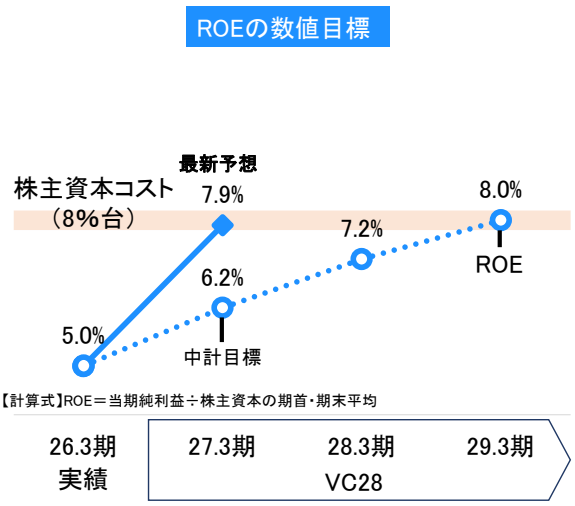
（－）日本の営業体制強化に向けた人員増、投資コスト増


© PUNCH INDUSTRY


- 2027年3月期の業績予想における営業利益の増減分析
- 営業利益は前期の20億31百万円から6億68百万円増益となる27億円を予想
  原材料高騰要因での価格改定による一時的な離客を織り込む一方、
  日本を中心とした売上増の継続を見込む
- 原材料高騰や価格競争の影響を織り込む一方、日本の稼働増等による
  原価率改善を見込む
- 物流費等の変動費は、売上増加による費用増を物流効率化で抑制
- 固定費は、日本の営業体制強化に向けた人員増や投資コスト等で増加

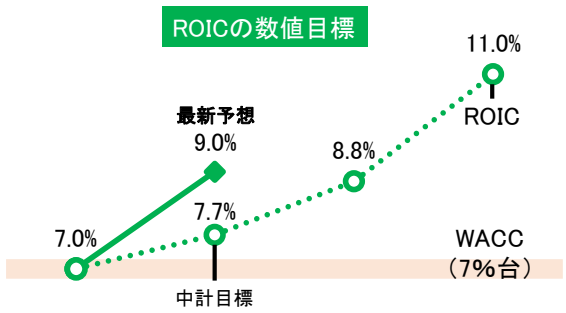
# 資本効率性の数値目標

ROEは中計最終年度目標値の8.0%に迫る見込みで推移




【計算式】ROE＝当期純利益÷株主資本の期首・期末平均

| 26.3期 | 27.3期 | 28.3期 | 29.3期 |
|---|---|---|---|
| 実績 | | VC28 | |




【計算式】ROIC＝NOPAT（税引き後営業利益）÷（有利子負債＋株主資本）の期首・期末平均

| 26.3期 | 27.3期 | 28.3期 | 29.3期 |
|---|---|---|---|
| 実績 | | VC28 | |


© PUNCH INDUSTRY


- ROE、ROICについて
- 当社は、資本コストを上回るリターンを生み出し、持続的な企業価値向上を目指している
- ROE：2026年3月期実績の5.0%から、2027年3月期は7.9%を予想
  中計の同年度目標6.2%を上回り、最終年度目標の8.0%に迫る見込み
- ROIC：2026年3月期実績の7.0%から、2027年3月期は9.0%を予想
  中計の同年度目標7.7%を上回る見込み
- 今後も、ROEは株主資本コスト、ROICはWACCを上回る水準を目指し、
  エクイティスプレッド・EVAスプレッドの向上を目指す

# 2027年3月期～2029年3月期
# 中期経営計画「バリュークリエーション28」
# 取組みの進捗

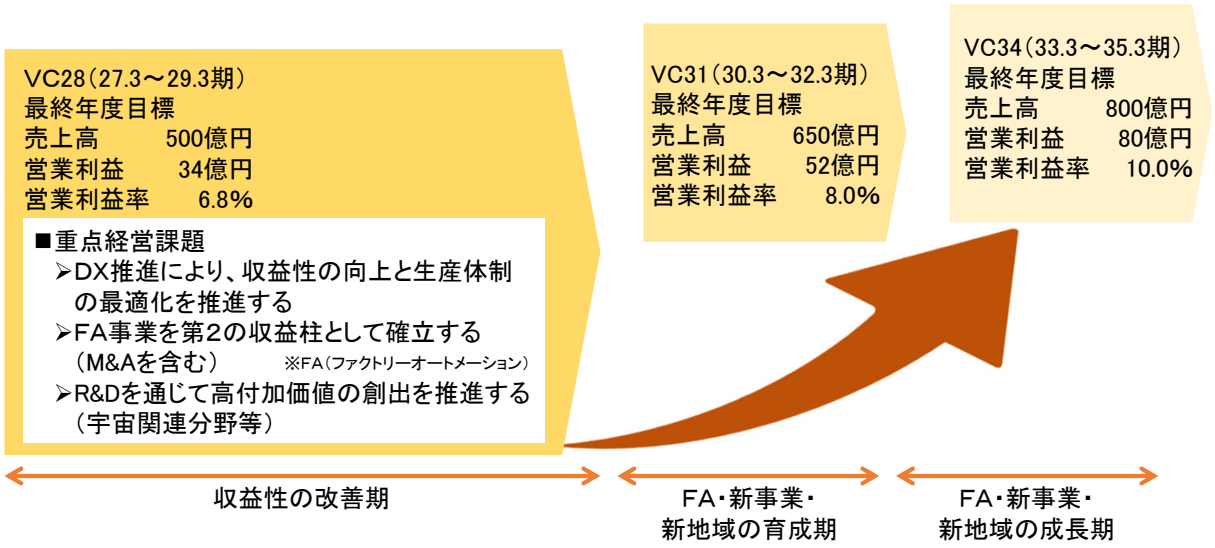
◆ 本資料内では、中期経営計画「バリュークリエーション（VALUE CREATION）」を「VC（ブイシー）」と称しています

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 中期経営計画「バリュークリエーション28」概要と足元の取組みの進捗

# 成長軌道イメージとVC28の位置づけ

強固な金型部品事業をエンジンに、新たな価値創造と事業領域を拡大





© PUNCH INDUSTRY


- 長期ビジョン「Vision60」とVC28の位置づけ
- Vision60では「脱・金型部品依存」をテーマに、金型部品加工で培った技術をFAや新事業へ展開
- 2035年3月期の目標は売上高800億円、営業利益80億円、営業利益率10%
- Vision60は3つの中計で構成
  1期目のVC28は収益性の改善期、その後をFA・新事業・新地域の育成期、成長期と位置づけ

# VC28のエグゼクティブサマリー

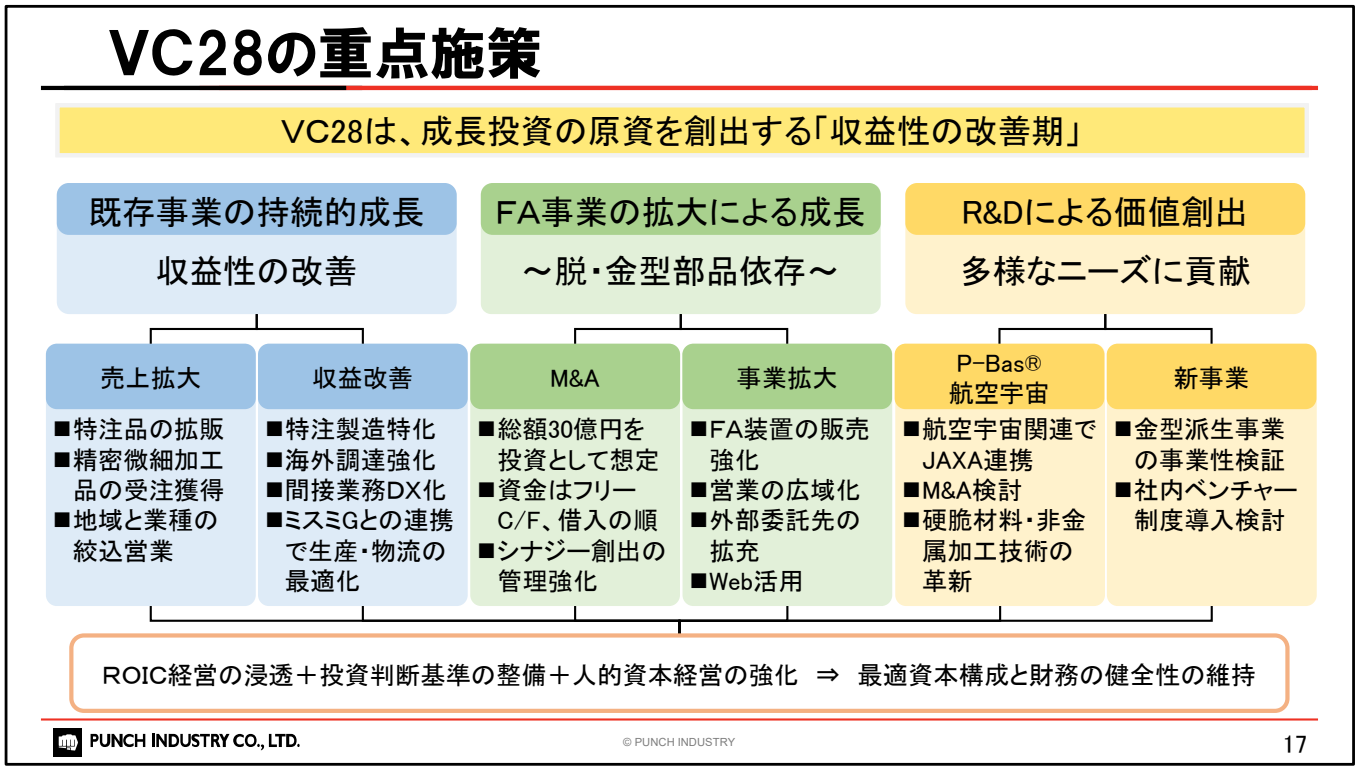
「収益性の改善」と「次の成長に向けた基盤構築」に集中

| | |
|---|---|
| 「VC28」の最終年度に目指す姿 | ROICは計画期間を通じてWACCを安定的に上回り、ROEは最終年度8.0%を目指す |
| | 安定的なキャッシュ創出と、規律ある成長投資の両立を目指す |
| | 企業価値の持続的向上によって、PBR1.0倍超の安定的達成を目指す |

| | |
|---|---|
| 既存事業（金型部品） | 特注特化と生産性の向上により、安定したキャッシュ創出基盤を強化 |
| FA事業 | 自動化需要を背景に、第2の収益柱として本格的に育成 |
| DX・間接業務改革 | 業務効率化と固定費構造改革により収益力を底上げ |
| M&A・協業 | 成長領域への補完投資とシナジー創出を通じ、事業ポートフォリオ高度化 |


© PUNCH INDUSTRY


- VC28の全体像
- ROICは計画期間を通じてWACCを安定的に上回り、ROEは最終年度8.0%を目指す
- 安定的なキャッシュ創出と、規律ある成長投資の両立を目指す
- 企業価値の持続的向上によって、PBR1.0倍超の安定的達成を目指す

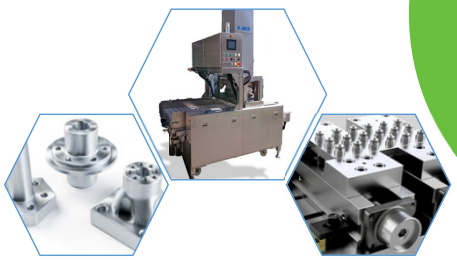


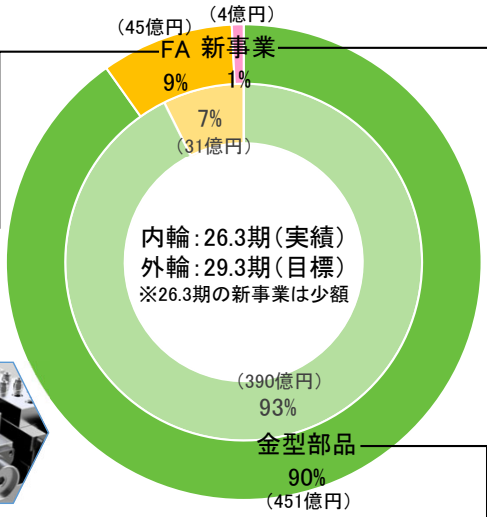

- VC28の重点施策
- 既存事業：粗利率の良い特注品へのシフト、DXによる間接業務効率化で収益性を改善
- FA事業：自社の装置販売強化に加え、M&Aによる成長も目指す
- R&D：航空宇宙関連や金型にこだわらない新事業を育成し、社内ベンチャー制度の導入も検討

# 事業ポートフォリオ戦略

## 時代が求める事業の探求と事業領域の拡大を実現

【成長領域】FA事業
●事業役割
➢自動化・省力化を軸に、M&A含む資源を最優先投入
●事業戦略
➢既存事業のクロスセル深化とM&Aで技術獲得し成長確実化






【将来成長】新事業・R&D
●事業役割
➢中長期の成長機会を見据えた将来成長領域であり第3の柱化が目標
●事業戦略
➢生産リソースの最適活用
➢技術応用・進化と顧客横展開
➢投資規模を管理しつつ育成推進



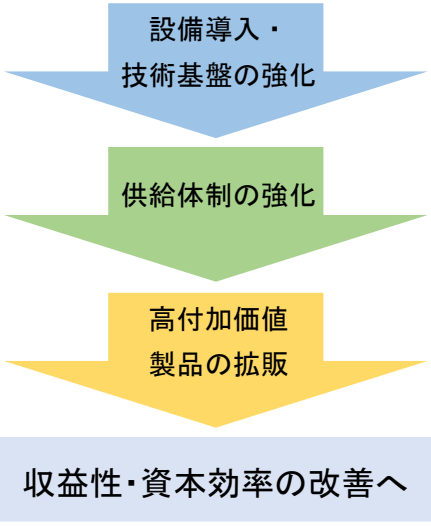
【コア事業】金型部品事業
●事業役割
➢グローバルで安定した収益を創出する収益基盤
●事業戦略
➢特注品特化
➢精密微細加工品の受注獲得
➢DX推進による生産効率改善

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.
© PUNCH INDUSTRY


- 事業ポートフォリオ戦略について
- 金型部品事業：安定した収益・キャッシュ創出の中核として育成
  FA事業：成長領域として育成
- 金型部品事業では、特注品への特化、精密微細加工品の受注獲得、DXによる生産効率の改善を推進
- FA事業では、自動化・省力化を軸に資源を優先投入し、既存事業とのクロスセルやM&Aによる技術獲得を通じて成長を目指す
- 新事業・R&Dは、中長期の成長を担う第3の柱を目標に、投資規模を管理しながら育成
- 金型部品事業で稼ぎながらFAと新事業を段階的に拡大し、時代が求める事業の探求と、バランスの取れた事業構成への転換を進める

# 海外工場での特注強化（既存事業の持続的成長）

中国工場で設備投資を実施し、特注品・精密微細加工品の拡販へ




■ 設備投資の内容
- 設置場所：大連工場（中国）
- 設備内容：日本メーカー製 電子ビーム加工機1台
- 取得日　：2027 年7月（予定）

■ 導入の目的
- グローバル顧客（社名非公開）と、生産体制整備の合意済み
- 新規の特注プラスチック金型部品の供給開始、既存取引部品の増産体制の整備を実施

■ VC28達成に向けた効果
- 特注金型部品や精密微細加工品の生産量の増加
- 精密溶接技術の確立
- 精密微細加工品の安定供給
- 高付加価値製品の売上に占める割合の増加

◆ 粗利率の良い特注品へのシフトを通じて、収益性の改善へ


© PUNCH INDUSTRY


■ 海外工場での設備投資による特注強化について

■ 中国 大連工場に電子ビーム加工機を導入予定（取得予定：2027年7月）

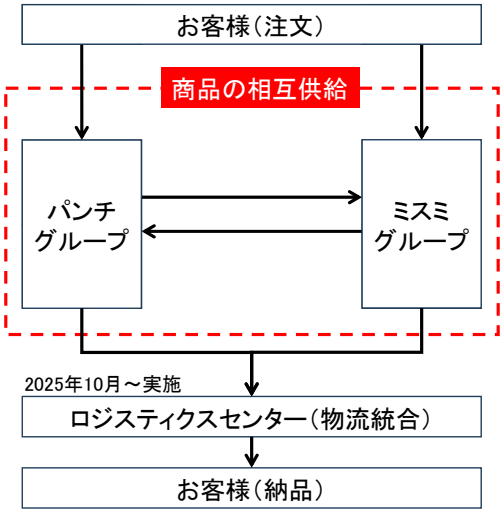
■ グローバル企業との合意契約をもとに、新規の特注プラスチック金型部品の供給と既存部品の増産体制を整備

■ 生産量増加、精密溶接技術の確立、精密微細加工品の安定供給を目指す

■ 特注品へのシフトと高付加価値製品の構成比向上により、VC28の収益性改善につなげる

# 資本業務提携（既存事業の持続的成長）

ミスミグループ本社と標準品×特注品の協業でグローバルな安定供給を実現




■ 開始済みの施策
- 標準品の相互供給
- 物流機能の統合（2025年10月～）
- 両社製造拠点の活用、生産最適化（2026年10月～）

■ 準備中の施策
- 標準品の相互供給品目の拡大
- 両社製造拠点の活用範囲の拡大
- 海外市場における協業策の具体化

■ パンチグループが対応すべき事項
- 設備投資・人財育成含めた特注品の生産能力向上
- 特注品取り込みのための営業強化
- R&D強化により事業領域の拡大

資本業務提携の効果として、29.3期までに
累計6～8億円の利益創出（当社単独）


© PUNCH INDUSTRY


■ ミスミグループ本社との資本業務提携（2024年10月締結）の進捗について

■ 商品の相互供給・規格統合に加え、2025年10月から物流機能を統合し、オペレーションコストを最適化

■ 2026年10月から一部製品で生産機能の相互活用を開始

■ さらなる対象品目・活用リソースの拡大や海外協業等を通じて安定供給の実現を目指す

■ VC28最終年度までに当社単独で累計6～8億円規模の利益創出を目指す

# FA分野の展示会出展（FA事業の拡大）

ラボ自動化の実機展示やセミナーを通じ、拡販活動に注力



北洋銀行 ものづくりサステナフェア



JASIS 当社社員によるセミナー

■ パンチグループ（当社、ASCe）での共同出展も実施
- 金型部品の既存顧客以外との接点機会の創出
- 「金型部品メーカー」にとどまらない事業領域の顧客ニーズの把握と製品・サービスの改善

| 開催日 | 開催都市 | 展示会名 |
|---|---|---|
| 5/20～22 | 千葉 | インターフェックスWeek 東京<br>（第10回 バイオ医薬EXPO） |
| 6/3 | 山形 | 兼松KGK PRIVATE SHOW 2026 |
| 7/22 | 札幌 | 北洋銀行ものづくりサステナフェア2026 |
| 9/2～4 | 千葉 | JASIS 2026 |
| 11/5～6 | 札幌 | 第40回北海道　技術・ビジネス交流会 |

第2の収益柱としてFA事業の育成に向け取組みを継続


© PUNCH INDUSTRY

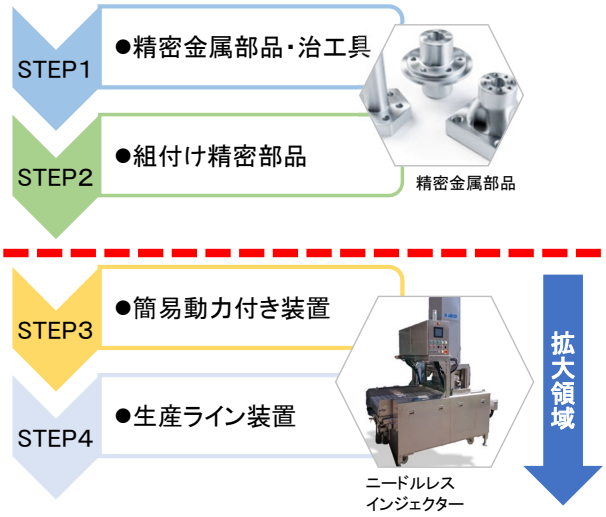

■ FA分野の展示会出展と拡販活動

■ 展示会への積極的な出展やセミナー開催を通じて、FA事業の拡販に注力

■ 金型部品以外の事業領域での認知獲得、顧客ニーズの把握と製品・サービスの改善につなげ、FA事業を第2の収益柱へ育成

# Next Edge Tokyoへの採択（FA事業の拡大）

**当社のFA事業が、東京都の成長支援事業に採択決定**




■ Next Edge Tokyoの概要
- ➢ 東京都が実施する、都内中堅企業向けの成長促進支援事業
- ➢ 経費支援は上限1億円、補助率1/3以内

■ 制度活用による当社の社会貢献
- ➢ 人手不足による作業負荷を軽減
- ➢ 技能継承・標準化への貢献
- ➢ 産業活性化への貢献

■ VC28達成に向けた効果
- ➢ 装置一式の販売拡大を通じ、FA事業の「第2の収益柱」への育成を目指す
- ➢ 収益性の改善と、次期中計以降の成長に向けた基盤構築を目指す

◆ 部品単品から、機械装置一式の製造・組立・販売へ取組みを強化

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.
© PUNCH INDUSTRY


■ 東京都の成長促進支援事業「Next Edge Tokyo」に当社FA事業が採択

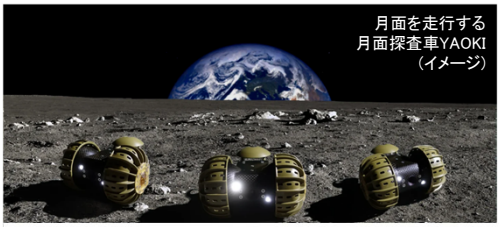
■ 制度を活用して当社のFA事業を成長させることで、人手不足による作業負荷軽減、技能継承・標準化、産業活性化への貢献を図る

■ 精密部品・治工具の単品から、組付け精密部品、簡易動力付き装置、生産ライン装置へとFA事業領域の拡大を目指す

■ 装置一式の製造・組立・販売を強化し、次期中計以降の成長基盤を構築

# 月面探査車の開発支援（R＆Dによる価値創出）

2025年3月、月面探査車YAOKIの月面稼働に3D計測技術で貢献
今後は精密加工技術を活かしてYAOKI本体部品も提供予定




●2025年3月　月面探査計画 Project YAOKI 1（PY1）
- 宇宙ベンチャーのダイモン社と技術パートナー契約を締結
- 3D計測技術を活用し、YAOKI本体と輸送コンテナの隙間を高精度に計測
- 打上げ・輸送時に機体を保護する振動吸収材の最適設計を支援し、打上げに必要な品質保証要件への適合をサポート
- YAOKIは月面での写真撮影に成功



3Dスキャナによる測定


測定したYAOKIの輸送コンテナ


YAOKI車輪

●Project YAOKI 2（PY2）（進行中）
- 当社は、3D計測技術の提供に加えYAOKI本体に装着するモーター保持の金属部品や車輪本体を開発・加工
- 月面模擬環境での共同実験にも貢献

宇宙産業で得られた技術を既存事業や新事業に活かし、企業価値向上を図る


© PUNCH INDUSTRY


- 月面探査車YAOKIの開発支援
- 2023年にダイモン社と技術パートナー契約を締結し、YAOKIプロジェクトに参加
- リバースエンジニアリングの知見を活用して探査車本体と輸送ケースを高精度に測定し、振動・衝撃から機体を守る役割を担当
- YAOKIは2025年3月に月面へ到着し、月面での撮影に成功
- 次の「Project YAOKI 2」では金属・樹脂部品の開発・加工へ協力範囲を拡大し、月面開発への貢献を目指す

# JAXAへの部品供給（R＆Dによる価値創出）

2026年7月、JAXAの再使用ロケット実験機「RV-X」の飛行実験が成功
当社はロケット燃料の注入ホースと機体をつなぐ金属部品の加工を担当



（上）
再使用ロケットRV-X
燃焼実験の様子
提供：JAXA



（下）
当社加工の金属部品
ロケット機体と燃料
注入ホースをつなぐ
重要な部品

●再使用ロケット実験機「RV-X」
- JAXAが研究開発を進める「再使用型宇宙輸送システム」の一環
- ロケットの再使用により、打ち上げ頻度の向上と宇宙輸送コストの大幅低減を目指す
- 宇宙へのアクセス性向上で、宇宙分野の研究開発の加速に貢献
- ハードウェアを繰り返し使用することで、資源消費や廃棄物を削減し、サステナビリティ向上にも寄与

●パンチグループの貢献
- RV-Xに使用される部品のうち、ロケット燃料である液体水素の注入ホースと機体を接続する高精度金属部品を提供
- 燃料漏れ防止のため、接合部を真円度0.001mm単位で精密加工
- 安全な燃料供給・分離機構の実現に貢献

精密加工技術を核に、成長分野である宇宙産業で得られた
技術を既存事業や新事業に活かし、企業価値向上を図る


© PUNCH INDUSTRY

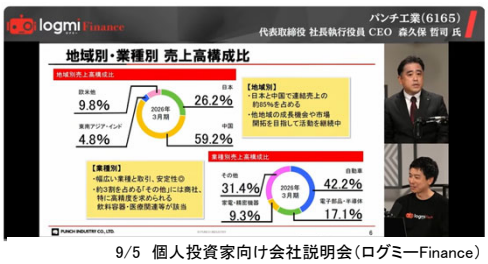

- JAXAの再使用ロケット実験機「RV-X」への部品供給
- 液体水素の注入ホースと機体を接続する高精度金属部品を提供
- 真円度0.001ミリ単位の精度要求とJAXAの品質基準をクリア
- 2026年7月の飛行実験成功に貢献
- 航空宇宙分野で得た技術を金型部品・FA等の既存事業や新事業に活かし、企業価値向上を図る

# 投資家との対話の質・量の向上

アニュアルレポートや会社説明会を通じて成長戦略への理解促進を図る



アニュアルレポート2026



9/5　個人投資家向け会社説明会（ログミーFinance）

■ アニュアルレポート
https://www.punch.co.jp/ir/library/#annual
- 2026年8月発行
- パーパス、事業概要、成長戦略（Vision60、VC28）、サステナビリティ等を統合的に紹介

■ 会社説明会　開催実績
- 9/5（土）個人投資家向け会社説明会
  当社公式YouTubeチャンネルでアーカイブ配信中
  https://www.youtube.com/playlist?list=PLHZwJd1gY4RI

■ 会社説明会　開催予定
- アナリスト向け：11/27（金）9:00～10:00（ハイブリッド開催）
- 個人投資家向け：1月 動画公開予定（オンデマンド形式）
- アーカイブ動画公開後は企業Webサイトにてご案内予定
  https://www.punch.co.jp/ir/


© PUNCH INDUSTRY


■ 投資家との対話の質・量の向上

■ 2026年8月発行のアニュアルレポートで、事業概要、Vision60・VC28、サステナビリティ等を統合的に紹介

■ 2026年9月5日の個人投資家向け会社説明会を公式YouTubeで配信中
2027年1月にもオンデマンド形式で説明会動画を公開予定

■ 機関投資家向け説明会を会場・オンラインのハイブリッド形式で開催し、1on1面談にも対応

■ 対話を通じて戦略や価値創出への理解を深め、市場から正当に評価される企業を目指す



# 参考資料



## ひと目でわかるパンチグループ

| 設立 |
| --- |
| 1975年3月 |

| 上場 |
| --- |
| 2012年　株式上場<br>2023年　スタンダード市場 |

| 生産拠点 | |
| --- | --- |
| 日本<br>4カ所 | 海外<br>8カ所 |

| 金型部品業界のシェア（当社推計） | |
| --- | --- |
| 特注品<br>世界1位 | カタログ品<br>世界2位 |

| 販売拠点 | |
| --- | --- |
| 日本<br>11カ所 | 海外<br>42カ所 |

| 海外売上高比率（2026年3月期） | |
| --- | --- |
| 日本26% | 海外74%<br>（中国59%） |

| 従業員数（2026年3月） | |
| --- | --- |
| 日本<br>676名 | 海外<br>2,804名 |

| コーポレート・ガバナンス |
| --- |
| 社外取締役比率50%<br>（取締役会議長は社外取締役） |

パンチ工業株式会社


© PUNCH INDUSTRY

# マネジメント体制

## 代表取締役社長プロフィール

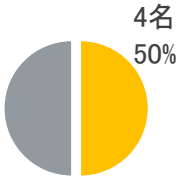
| 氏名及び生年月日 | 職歴 | |
|---|---|---|
| 森久保　哲司<br>（1977年1月22日） | 2003年5月 | 当社入社 |
| | 2005年2月 | 盤起工業（大連）有限公司 |
| | 2012年11月 | バリュー・クリエーション推進室長 |
| | 2013年4月 | 経営企画室長 |
| | 2015年4月 | PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD. |
| | 2016年5月 | 執行役員 |
| | 2018年6月 | 取締役<br>上席執行役員　経営戦略統括 |
| | 2019年4月 | 最高戦略責任者<br>グループ事業統括 |
| | 2019年6月 | 代表取締役（現任）<br>副社長執行役員 |
| | 2019年11月 | 社長執行役員　最高経営責任者<br>グループ経営統括（現任） |



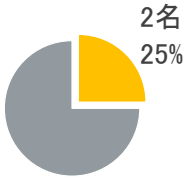
## 取締役体制

| | | |
|---|---|---|
| 取締役 | 代表取締役社長執行役員<br>最高経営責任者（CEO） | 森久保　哲司 |
| | 取締役上席執行役員<br>最高執行責任者（COO） | 高梨　晃 |
| | 取締役上席執行役員<br>最高財務責任者（CFO） | 松澤　靖 |
| | 社外取締役 | 高辻　成彦 |
| | 社外取締役　**取締役会議長** | 大里　真理子 |
| 取締役<br>（監査等委員） | 取締役（監査等委員） | 河野　稔 |
| | 社外取締役（監査等委員） | 鈴木　智雄 |
| | 社外取締役（監査等委員） | 田畑　千絵 |

社外取締役比率




女性取締役比率





© PUNCH INDUSTRY


# パンチグループ沿革

## ’70

**1975**
- 創業、プリント基板用穴あけピン製造

## ’80

**1982**
- プラスチック金型部品に進出（ハイスエジェクタピンの量産化に成功）

**1983**
- 北上工場設置、金型部品の全国販売を開始

**1989**
- 宮古パンチ工業（現：宮古工場）設立

## ’90

**1990**
- 中国大連に製造拠点設立

## ’00

**2001**
- 中国国内に販売拠点設置

## ’10

**2010**
- インドに販売拠点設立

**2013**
- パンサー社（現：マレーシアパンチ）をグループ会社化
- 中期経営計画（以下、中計）策定「バリュークリエーション（以下、VC）15」

**2014**
- 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定（2012年東証二部上場）

**2015**
- ベトナムに製造拠点設立
- 創業40周年

**2016**
- ベトナム工場、本稼働開始
- 米国イリノイ州に販売拠点設立
- 中計「VC2020」策定

**2018**
- 中国大連の製造拠点増設

**2019**
- ベトナム工場　第2フェーズ開始

## ’20

**2020**
- 中計「VC2020Plus」策定
- 経営革新プロジェクト開始

**2022**
- 中計「VC2024」策定
- 株式会社ASCeをグループ会社化

**2023**
- 中計「VC2024 Revival」策定
- 東京証券取引所スタンダード市場移行

**2024**
- ミスミグループとの資本業務提携契約を締結

**2025**
- 長期ビジョン「Vision60」策定

**2026**
- 中計「VC28」策定


© PUNCH INDUSTRY

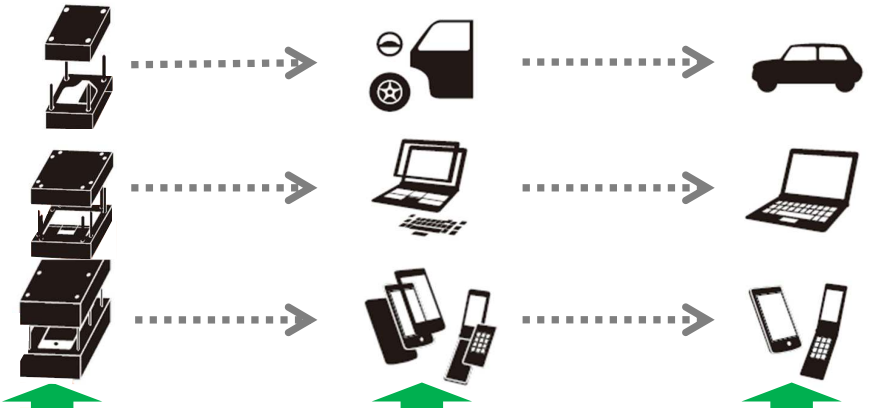
# 事業内容

金型を構成する「金型部品」を製造販売　豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」




たとえばこんな部品





**金型**
構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

**構成部品**
製品を構成するために必要となるパーツ

**製品**
自動車や家電などのさまざまな製品


© PUNCH INDUSTRY


# パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ＆カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

## パンチグループの強み

**お客様に高い満足度を提供**

日本・中国

特注金型部品シェア1位　※当社推計

**カタログ品**
汎用性の高い標準製品を豊富にラインアップ




**タイムリーで的確なソリューション**

**特注品**
カスタムニーズにも柔軟に対応



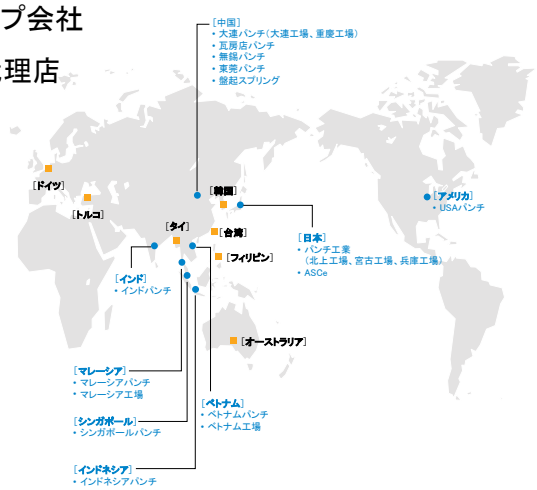
**一気通貫の生産体制**
2,000台の設備で幅広い対応力

**お客様密着型の営業体制**
きめ細かな対応・提案力

**高い技術力**
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

## パンチグループのネットワーク

● グループ会社
■ 販売代理店

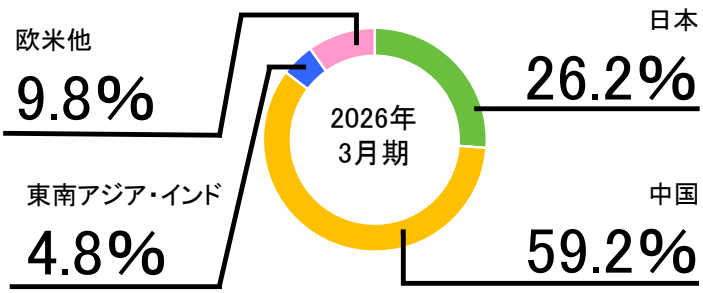




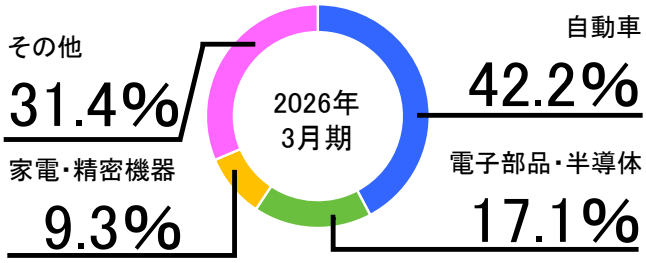
© PUNCH INDUSTRY

# 地域別・業種別売上高構成比

## 地域別売上高構成比




## 業種別売上高構成比





© PUNCH INDUSTRY


# 業種別の主要顧客

日本での主な競合先：大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
中国での主な競合先：中華系機械商社、中華系機械メーカーなど




主要顧客

自動車メーカー
及びTier1,2
金型メーカー




主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー




主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



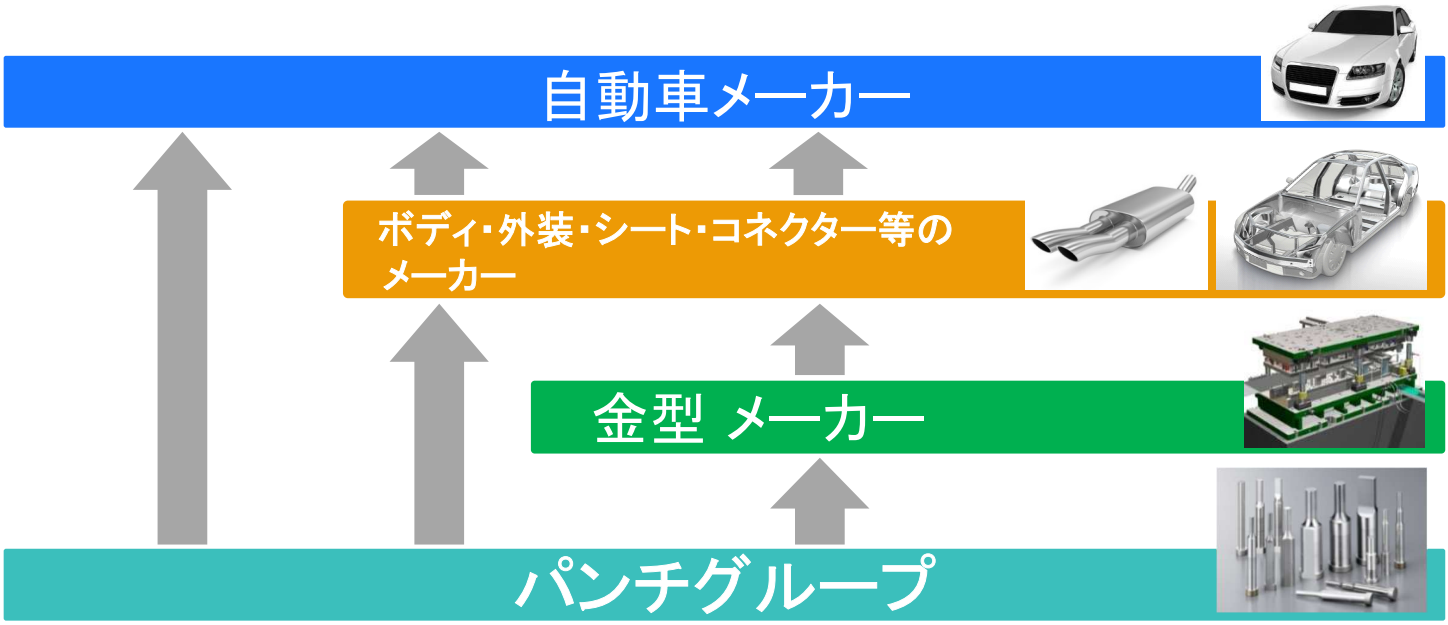

主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー


© PUNCH INDUSTRY

# エンドユーザーのイメージ（例：自動車業界）

業界に関わらず、ものづくりの上流から下流までの様々な企業とお取引





© PUNCH INDUSTRY


# パンチグループの主要製品

金型部品の販売を通じて、ものづくりの上流から下流までとお取引き
プラスチック金型部品とプレス金型部品を取り扱う

## プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造の製造に用いられる。射出成形機に実装された金型に、加熱溶融したプラスチック樹脂を注入して冷却、固化して製品を製造。
当社は、この金型を構成する部品を製造。



**主要な製品**

**エジェクタピン**
射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品（押し出しピン）。



**コアピン**
製品部を成形する際、コアピンの形が転写される。
製品部に彫刻を施すこともある。

## プレス金型部品

プレス金型は、プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することで、金型で型どられた製品を製造。
当社は、この金型を構成する部品を製造。



**主要な製品**

**パンチ**
プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写する。
「パンチ工業」の社名はこの製品名に由来。

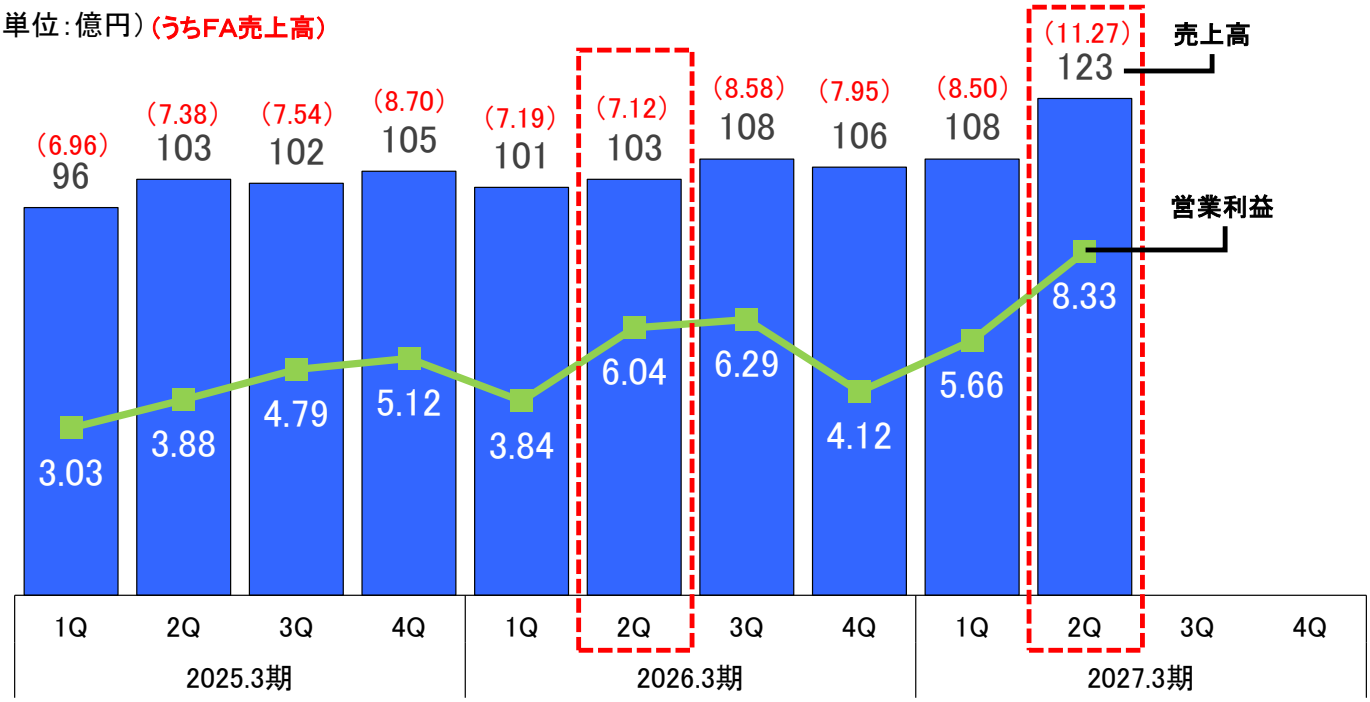


**ホルダーガイドポスト関連**
上型と下型の関係を正しく保つために使用する。


© PUNCH INDUSTRY

# 売上高と営業利益の推移

（単位：億円）（うちFA売上高）

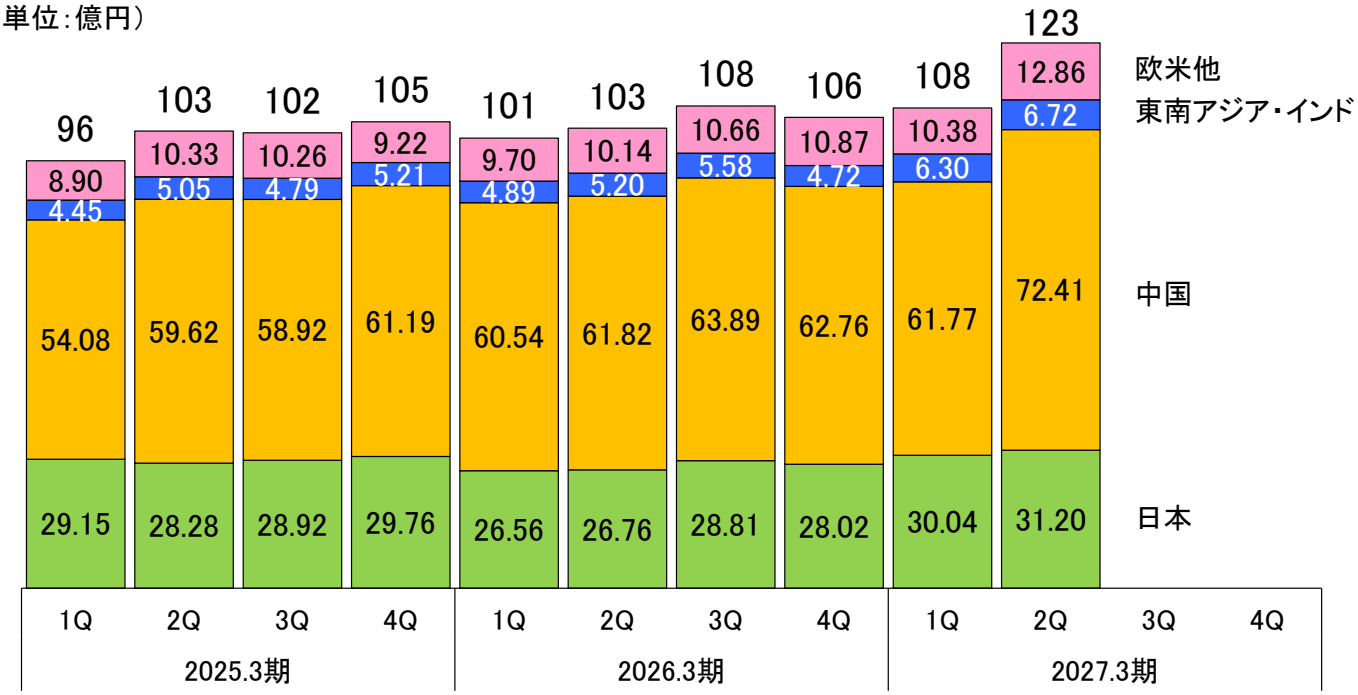




© PUNCH INDUSTRY


# 地域別売上高

（単位：億円）

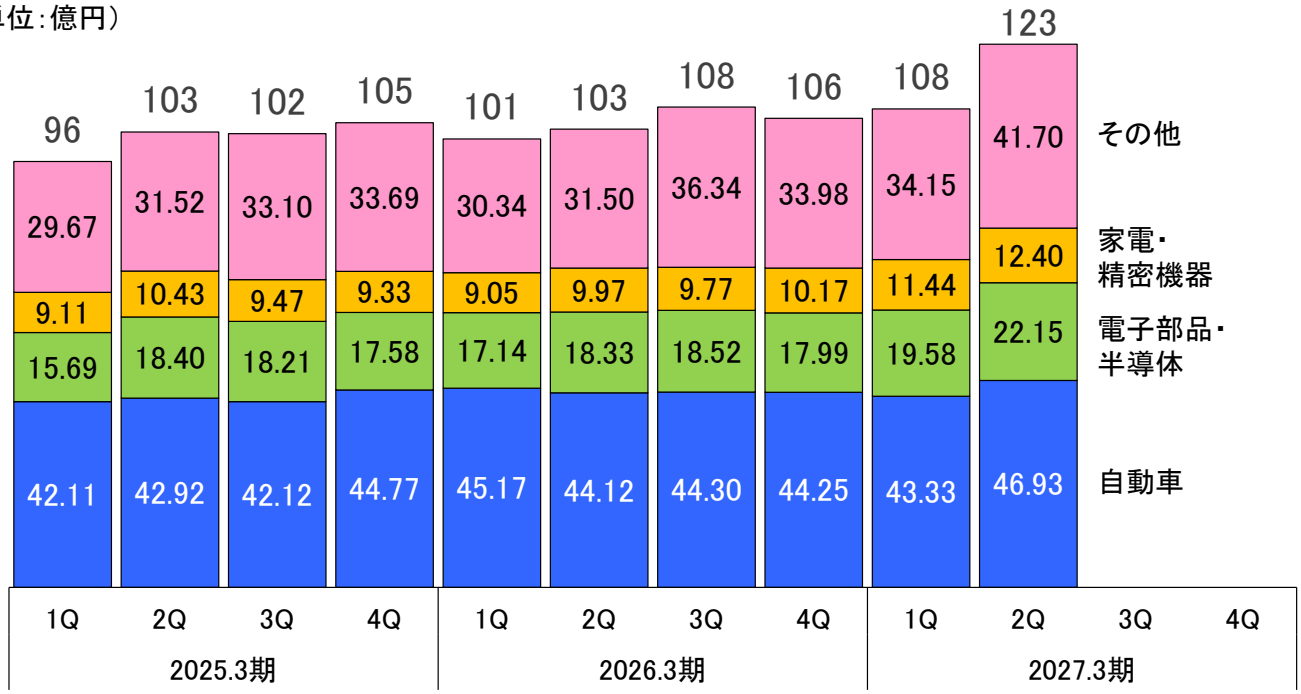




© PUNCH INDUSTRY

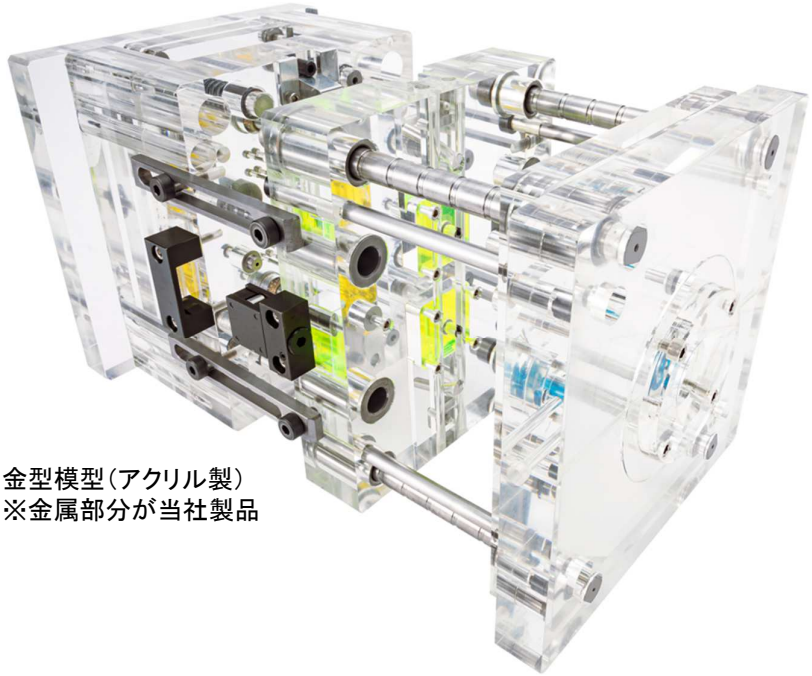
# 業種別売上高

（単位：億円）





© PUNCH INDUSTRY

金型模型（アクリル製）
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社　コーポレート・コミュニケーション部　広報IR課　電話：03-5753-3130　e-mail：info-corp@punch.co.jp

**【将来見通し等に関する注意事項】**
本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。